

先生各位

検査内容変更のご案内

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ALPとLDにつきまして、日本国内ではJSCC法(JSCC: 日本臨床化学会)が用いられて参りましたが、国際的にはIFCC法(IFCC: 国際臨床化学連合)が広く採用されています。

日本臨床化学会より、ALPとLDの常用基準法を国際臨床化学連合(IFCC)の基準測定操作法と同一の測定法(IFCC法)に変更する基本方針が発表されております。

学会の方針に基づき当該検査項目をIFCC法試薬での測定に変更いたしますので、下記の通りご案内申し上げます。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

敬白

記

■実施日 2021年4月1日(木) ご依頼分より

■変更項目および変更内容

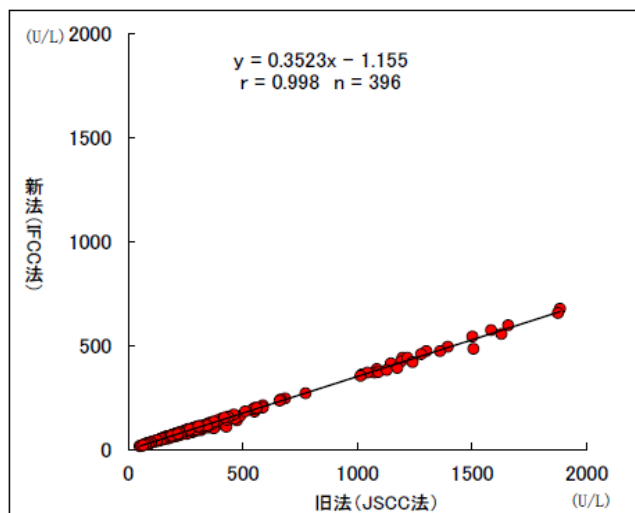
案内書掲載頁	項目コード 統一コード	検査項目	変更箇所	新	現	備考
21・25	1101 3B070	ALP	検査方法	IFCC標準化対応法	JSCC準拠法	IFCC標準化対応法への変更
			基準値	38~113 U/L	100~350 U/L	
			緊急報告範囲	700 U/L以上	2000 U/L以上	
	1106 3B050	LD(LDH)	検査方法	IFCC標準化対応法	JSCC準拠法	
			基準値	124~222 U/L	120~240 U/L	
			緊急報告範囲	変更なし(500 U/L以上)		

裏面もご確認ください

ご不明な点等ございましたら貴院担当もしくは当社お客様窓口までお申し付けください。

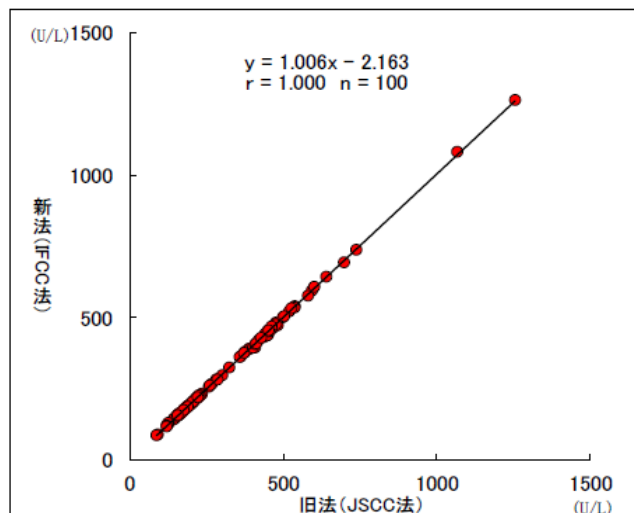
【IFCC法とJSCC法の相関】

〔ALP〕



(社内検討データ)

〔LD〕



(社内検討データ)

IFCC法に関する補足情報

一般社団法人 日本臨床化学会 の資料には以下のことが記載されていますので、参考情報としてご案内致します。

ALP

○測定値が現行のJSCC法の1/3程度の数値になります。

○変更前後の値の換算には限界があります。IFCC法に変更することで血液型B,O型では小腸型ALPを含む検体で低めになり、逆に妊婦では胎盤型ALPが増加することにより高めに測定されます。

「換算係数」

- ・JSCC法測定値からIFCC法測定値に換算：0.35倍
- ・IFCC法測定値からJSCC法測定値に換算：2.84倍

LD

○LD5優位検体では現行のJSCC法に対して低めの活性になります(LD5が50%の症例では測定値の差は20%未満)。

○換算せずそのままの測定値を使ってください。

一般社団法人日本臨床化学会のホームページには、IFCC移行に際し補足資料として下記の資料が掲載されていますのでご参照下さい。

「ALP、LDの測定方法の変更に関するご案内」(2020年2月13日)

- ①ALP、LDの測定方法の変更に関するリーフレット
- ②ALP・LDの測定法変更について(医療従事者向け)
- ③ALP・LDの測定法変更について(検査室実務者向け補足説明)
- ④ALP、LDの測定方法変更に関するQ and A(ver.2.0)

一般社団法人 日本臨床化学会 「ALP、LDの測定方法の変更に関するご案内」

URL : <http://jsccl-jp.gr.jp/>